

圏外のアンテナ

[文章作成A I]の巻

先月、A I（人工知能）アートにハマっている話を書いた。

実際のところ、A Iを使って好みの絵を作成する作業は、かなりおもしろい。図画の苦手な、わたしのようなタイプにとっては、まさに福音。

一日の終わりに、自分へのごほうびのつもりで、あれこれ英語で考えた命令文を、サイトに入力して画像を出力する作業をはじめると、ついつい時間がたつのを忘れてしまう。

ところが、A Iが作るのはアートだけでないことを、最近になって知った。なんと、A Iが文章を作成してくれるサイトまで存在していたのである。

例えば「キャッチー」という日本語A Iライティングサイトでは、最初の一文を入れると続きの文章を書いてくれることがわかった。

試しに、「A Iが描いてくれるのはアートだけではない。」と入力してみたところ……。

「……A Iは芸術を描くだけでなく、文章も書く。A Iは、記事の執筆やアートワークの作成など、さまざまな作業に活用できる非常に強力なツールである。

しかし、A Iは完璧ではなく、時には人間が理想とする結果とは異なる結果を出すこともある。将来的には、A Iが自律的に小説を丸ごと生成することも可能になるかもしれない。」

と、ものの数分で続きを書いてくれた。驚いたことに、読み返してみても、まったく破綻のない文章だ。

今後、A Iが普及しても、アートや文章の分野は、最後まで人間の手に残されるのではないかと、なんとなく想像していたが、それは大きな勘違い。

「どうする？」「どうする？」という、テレビのコマーシャルでよく聞くセリフが、まるで木枯らし1号のように、わたしのアタマの中を吹き荒れている。

=2022年11月25日掲載=

